

5歳児 ほし組・つき組 保育指導案

指導者 (ほし組) 芦 村 こころ
(つき組) 名 越 絵 美

「うまいったぞ やっぱりな!」というキーワードを設定し、話し合いの場を必要に応じて設けたことは、子どもたちのおまつりに向けた思いやそれを表現する姿を支えるために有効であったか。

1 活動名 うまいったぞ やっぱりな! ~ようちえんみんなの子ども秋まつりをしよう~

2 第9期前半(10月下旬~11月下旬)の保育の構想

(1) 本学年の子どもたちは、新しい学級に慣れた6月頃より、園庭のさまざまな環境に目を向け出し、「ピカピカに光る泥だんごが作りたい。」「築山から滑れたらおもしろそう。」など、特に砂・土・水に関わって自分の願いやめあてをもって遊び、思うようにいかなくても、いろいろなやり方を試しながら何日も取り組んでいく姿が見られるようになった。さらに、友だちの泥だんごを見て作り方を教えてあげたり、築山から滑るために友だちと一緒に水の入った重たいバケツを、力を合わせて運んだりするような友だちの願いを受け止め、協力する姿もみられた。

9月の運動会に向けては、「本物リレーがしたい!」というめあてを多くの子どもが共有し、「本物リレーだから、ハチマキしてしようよ」「スタートにたくさん人がいたら、誰にバトンを渡したらいいかわからないから、違う場所にしようよ」などと自分の考えをみんなに伝えながら、めあてである「本物リレー」をつくりあげていくことができた。互いの思いが十分に分かり合えず、いざこざになることもあるが、少しずつ相談しながら分かり合い、協力して遊びを進めていこうとする姿が見られ始めている。

また、年少児が遊びに入ることを受け入れ、優しく関わったり、自分が見つけた発見を教えてあげたりしながら、一緒に遊ぶことを楽しんでいる子どももいる。しかし、「お世話をしてあげたい。」「こんなことを教えてあげたい。」という気持ちはありながらも、全体的には年少児と積極的に関わっていこうとする姿勢はまだ少なく、同年齢の子どもたちと遊ぶことが多い。

「学級で共有する活動」での伝え合いについては、「自分でみつけた遊び」で感じたことや考えたことをみんなに伝えたいという気持ちをもっている子どもが多く、友だちの考えや気持ちを聞いてその気持ちに共感したり、自分なりに考えようとしていたりしている姿も見られ始めている。

(2) 第9期前半の生活では、このような子どもたちに「自分でみつけた遊び」や「学級で共有する活動」において自分の考えやめあてをもち、友だちと相談して工夫したり問題解決したり、年少児ともかかわり合いながら、遊びを続けてほしいと願っている。第9期前半の終わり頃である11月20日には、園行事「子どもまつり」がある。これは園全体で行う行事であり、当日はお家の人も招いて全園児で自分たちの活動をしたり、他の学級に自由に行き来したりしながらおまつりを楽しむ。子どもたちは昨年度、4歳児の立場で子どもまつりを経験し、数人の友だちとかき氷屋さんやアクセサリー屋さん、水族館屋さんなど自分がおまつりからイメージする遊びを楽しんだ。今年度は昨年度の経験を生かし、見通しや願いを具体的にもちながら、意欲的に活動に取り組んでほしいと願っている。そこで、当日のおまつりを作り上げていく数週間の過程において、『うまいったぞ やっぱりな!』をキーワードに設定し、次のような過程を大切に活動をしていく。

- ①「どうやったらうまいくのかな」：うまいくかないときに、自分なりに立ち止まって考える。
- ②「こうしてみたらどうかな」：自分なりに考えたことを試したり、確かめたりする。
- ③「こうしたらうまいったぞ」：自分の追求をふりかえり、そのよさを実感する。

その際に、一緒に遊んでいる友だちに自分の思いや考えを表現して伝え、相談をしながら自分たちの願いを実現していく。さらには数人の友だちで考えたことや試したことを学級みんなと共有し、一つのめ

あてにみんなで向かっていく。そんな一連の経験を積み重ねて、「自分の願いをどうしたら実現できるか考える力・遊びをつくり工夫する力・友だちとかかわり協力していく力」を伸ばしていきたいと考えた。その中で年少児との関わりにおいては、遊びの中に年少の友だちを受け入れて遊ぶ姿や譲ってあげたり、やり方を教えてあげたりするなどの優しい気持ちで接しようとする姿を期待している。

また、本園は自然に恵まれており、秋になるとどんぐり（こなら）やまつぼっくり、黄葉したイチョウやスズカケ、メタセコイアの葉っぱが園庭を覆うほどたくさん落ちる。そのような秋ならではの環境に目を向け、自然物を遊びに取り入れて工夫しながら遊んでほしいという願いもあって、「ようちえんみんなの子ども秋まつりをしよう」と本活動を設定した。

さらに11年間のつながりという視点から、年長5歳児の後半にさしかかる第9期では、学級や学年でめあてを共有して、仲間とともに相談したり試行錯誤したりしながら遊びに取り組んでいくことが、小学校以降の学びにつながると考える。そこで、「子ども秋まつり」に向かって一人ひとりが自分の思いや考えを表現しながらも、学級・学年でめあてを共有し仲間とともに遊びをつくりあげていくことを大切にしたいと考えている。

(3) 11月20日は、おうちの人を招いてみんなでする「子どもまつり」の日である。その日に向けて、子どもの意識の流れを大切にしながら活動を進めていくが、基本的な構想を次のように考えた。

まずは、第一次として「秋となかよし、たのしいな」と子どもたちが自ら秋の自然に関わって遊んでいる姿を大切に、子どもの思いに共感したり、教師も一緒になって秋を感じながら遊んだりすることで思いきり秋の遊びを楽しむことができるようにする。第二次では、「子どもまつり」があることを子どもたちに知らせ、どのようなことをおまつりでしたいのか子どものイメージを引き出しながら、子ども秋まつりに向かって自分のしたいことを友だちと共に実現していくことができるよう支えていく。そして、第三次では、この1週間を子どもまつりウィークとし、「みんなが楽しくなるようなおまつりにしようよ!」とどのようにしたらもっとたくさんお客さんがきてくれるか、どうやったらお客さんが喜んでくれるかとお客さんの立場を意識しながら遊びを進めていけるようにしたい。この頃より、「みんなが楽しくなるようなおまつりにしようよ!」と学級・学年でめあてを共有できるようにし、学級で共有する活動では、このめあてに話題を絞り、「どうしたらお客さんが喜んでくれるか」という考えや、他の友だちのおまつりの遊びに加わって感じたことを伝え合いながら、どうやったらみんなが楽しくなるおまつりになるかをみんなで話し合う場を構成していく。

このように活動を展開していくことで、自分（たち）の考えをみんなに伝えようとしたり、友だちがうまくいかなくて困っている話を自分のこととして受け止めてどうしたらいいかをともに考えたり、友だちの考えを自分（たち）の遊びに取り入れたり、みんなで考えたことを試したりしてほしい。そして、「学級で共有する活動」と「自分でみつけた遊び」とがスパイラル的に機能していくことで、子どもの思考力・判断力・表現力の育ちへとつなげていきたいと考えている。

具体的に、以下のような環境構成や教師のはたらきかけを行っていく。

①「自分でみつけた遊び」の体験が充実するために

- ・子どもたちが、遊びのイメージが膨らむきっかけになったり、自分の遊びによりふさわしいものを選んだりすることができるよう、「秋のおくりもの」コーナーを保育室に設け、コナラ・スタジイ・マテバシイ・ウバメガシ・クヌギなどのどんぐり、ツバキの実、メタセコイアの実、イチョウやスズカケの葉なども「秋のおくりもの」コーナーに分類して置いておく。
- ・一日の生活の流れに見通しをもって行動することができるよう、登園後に一度学級で集まる時間をもつ。そして、その中で前の日の話し合いを振り返ったり、今日の遊びにめあてがもてるような言葉かけをしたりすることで、子どもたちが遊びをさらに追求したり発展させたりできるようにする。
- ・子どもたちが活動に見通しをもち、自分（たち）のめあてをもって主体的に遊びを進めていくことができるよう、「子どもまつり」の日を記したカレンダーを掲示しておく。
- ・「～がしたいな」と考えたその子なりの発想を大切にしていけるとともに、その子の願いや考えが実現することができるよう、失敗したときにはどうしてなのかを立ち止まって考えていけるようにする。

- ・一緒に遊んでいる友だちと互いに考えを出し合い、相談することができるよう、必要に応じて「一緒に遊んでいる子で伝え合う場」を設定し、教師も一緒になって考えたり、解決の糸口になるような言葉かけを行ったりする。
 - ・年少の友だちが喜んでいる気持ちを子どもたちに伝えていくようにし、友だちが喜ぶことが自分の嬉しさとなるようにしていく。異年齢のかかわりだからこそ発揮できている力や遊びを面白くしようとしている姿が見られたときには、積極的に認め、このような姿が他の子どもにも広がるよう学級みんなに伝えていく。
- ②「学級で共有する活動（伝え合う場）」が、経験や学びをつむぐための場となるように
- ・自分たちの遊びの願いを実現させるために友だちと粘り強く続けていったことや役割を作って力を合わせていたこと、友だちと相談して新しいアイデアが生まれたことなどを紹介することで、他の子どもたちを触発するとともに、友だちと力を合わせる楽しさを伝えていく。
 - ・今まで「学級で共有する活動」で伝え合ってきたこと（遊びの工夫やアイデア）や「うまくいかないなあ」と子どもたちの困っていることを文字や絵・写真を使って掲示しておく。そうすることで、いつでも子どもたちが見て振り返ったり、自分の遊びに新たなめあてがもてたりするようにする。
 - ・「学級で共有する活動」が伝え合いの場にとどまらず、話し合いの場になるように「どうやったらみんなが楽しくなるおまつりになるかな」という話題に絞って子どもたちの考えを引き出し、それを整理したり、比較したり、追求したりできるような声をかけていく。
 - ・子どもの考えが、子どもの言葉だけでは学級のみんに伝わりにくいときには、教師が言葉を補ったり、ホワイトボードに書いて示したりすることで、子ども自身の考えを確かにしたり、他の子どもに分かるようにしたりする。

3 子ども秋まつりに向けての展開計画

次	主な活動 (おおよその期間)	期待する姿や経験させたい内容
1	（10月18日～28日頃） く秋となかよし、 たのしいな	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の自然に親しみながら、自分でみつけた遊びを楽しむ。 ・秋の木の実や葉っぱをつかっごちそう作りをしたり、アクセサリーを作ったりする。 ・どんぐりやくりをつかっごこまをつくったり、どんぐりころがしコースを作ったりする。 ・秋の自然にかかわっていく中で、オリジナルな遊びを発想し、どのようにしたらうまくいくかを考える。 ・一人でできないことやわからないことがあれば、友だちに聞いたり教えてもらったりする。 ・伝え合いの場において、自分でみつけた秋の木の実や葉っぱなどを見せたり、自分でみつけた遊びについて話したりする。
2	（11月1日～12日頃） くおまつりで、 どんなことしたい？	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもあきまつり」があることを知らせ、どんなことをしたいかを投げかける。 ・年少児でしたことを思い出しながら、おまつりに関する絵本や写真を見ることで、おまつりのイメージをもつ。 ・自分でみつけた遊びを通して、「おまつりであんなことしたいな」と考えながら、秋まつりに向けて気持ちを膨らませながら、やりたいことを明確にしていく。 ・やりたいことがみつけにくい子は、友だちのしている遊びを見たり、聞いたりすることで、「わたしもやってみたい！」とやりたいことを確かにしていく。 ・遊びの場ごとに相談しながら、遊びに必要な物や場を選択し、おまつりのイメージにふさわしくなるように工夫していく。（お店やさん、どんぐりコース、看板、おみこし等） ・困ったことがあれば、友だちと相談したり一緒に考えたりする。 ・伝え合いの場において、おまつりでしたいことを伝えたり、友だちの思いを聞いたりする。
3	（11月16日～20日） くみんなが楽しくなる おまつりにしようよ！ 【子どもまつりウィーク】	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども秋まつり当日に向けて、「もっと〇〇したら楽しくなるかな？」「おまつりには〇〇がいるよ！」などと、よりおまつりらしくなるようにチケットを作ったり、飾りつけをしたりする。 ・子どもまつりウィークでは、自分たちの遊びの場に年少児を誘ったり、受け入れたりして、一緒におまつりを楽しむ。 ・子どもまつりウィークを通して、よりお客さんを楽しませるためにはどうしたらいいかを遊びの場ごと、時には伝え合いの場において、クラス全員で考える。 ・お客さんの立場を意識しながら、どうしたら楽しいおまつりになるのか、友だちと一緒に試行錯誤しながら実現していく。

4 本日の生活について

(1) 本日のねらい

- ・自分がやりたい「おまつりの遊び」のイメージをもち、友だちと考えを出し合いながら遊びを進めていく。
- ・遊びに必要な材料や場所を選択したり、自分のイメージを実現するために試したり工夫したりして遊ぶ。

(2) 予想される生活の展開 [] 経験してほしい内容 [] 教師のはたらきかけ

8 : 45 登園 []
 ↓
 9 : 10 げんきっこタイム 「ナンバーワン体操」をする。

9 : 30 うまくいったぞ やっぱりな! ~おまつりで、どんなことしたい?~

学級で共有する活動	○今日の「おまつりの遊び」のめあてをもとう! ・「今日こんなことして遊びたいな」と自分がしたいことをみんなに伝える。 ・友だちの話を聞いて、おまつりの遊びのイメージをより確かにする。	
自分でみつけた遊び	○お店やさんにいるものをつくろう ・木の実を使ってアクセサリをつくる ・さまざまな素材を使って食べ物をつくる ・どんぐりごまやどんぐりコースをつくる	○おまつりに必要なものをつくろう ・おみこしづくり ・のぼりづくり
	・秋の自然物を取り入れながら、その子なりに工夫して作っている姿を認めていく。 ・じっくりと遊びに取り組んでいる姿を、お客さんになったり遊びに参加したりしながら共感的に受け止めていく。	・おみこしやのぼりを作りたいという子どものアイデアを認め、おまつりの遊びを盛り上げようとしている気持ちを受け止める。
	・必要があれば、一緒に遊んでいる子どもたち同士で伝え合う場をもち、考えを出し合わせ相談させることで、問題が解決できるように導いていく。 ・うまくいかずに困っている場面があれば、何に困っているのかを明確にしながら、どうしたらいいのかを共に考えていく。	
	10 : 10 片付け ・次の日も遊びが続けられるような片付けの仕方を子どもたちと相談しながら決めていく。 ・自分の使っていたものだけでなく、友だちが使っていたものを手伝ったり、最後まで頑張ったりしている姿を認めていく。	
学級で共有する活動	○どんな遊びをしたのか、みんなに教えてあげよう! ・自分がした「おまつりの遊び」をみんなに伝える。 ・友だちの困っていることを受け止めたり、どうしたらいいか一緒に考えたりする。	
	・「どうしてその遊びにしようと思ったの?」と投げかけ、子どもたちがどんな考えや思いでその遊びをしているのか、みんなに伝わるようにしていく。 ・遊びのなかで、うまくいかずに困っていることがあれば、「どうしたらいいと思う?何かいい考えはない?」などと声をかけながら、みんなで一緒に考えていけるようにする。 ・本日まで遊びや話し合いの過程が分かるように、写真や文字を使って掲示しておく。	